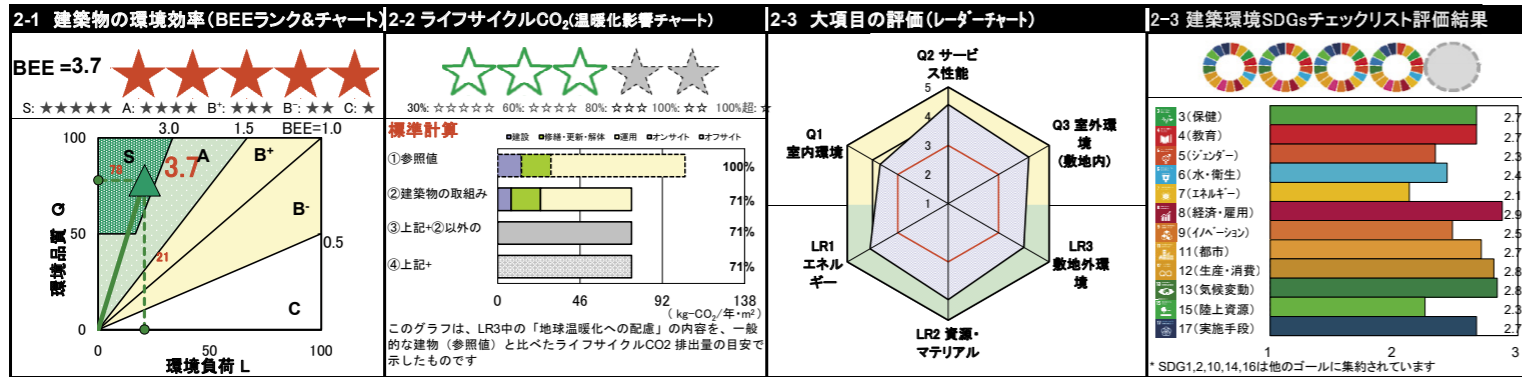


# 第1回 SDGs建築賞 審査委員会奨励賞

—大規模建築部門—

主催：一般財団法人 住宅・建築 SDGs 推進センター

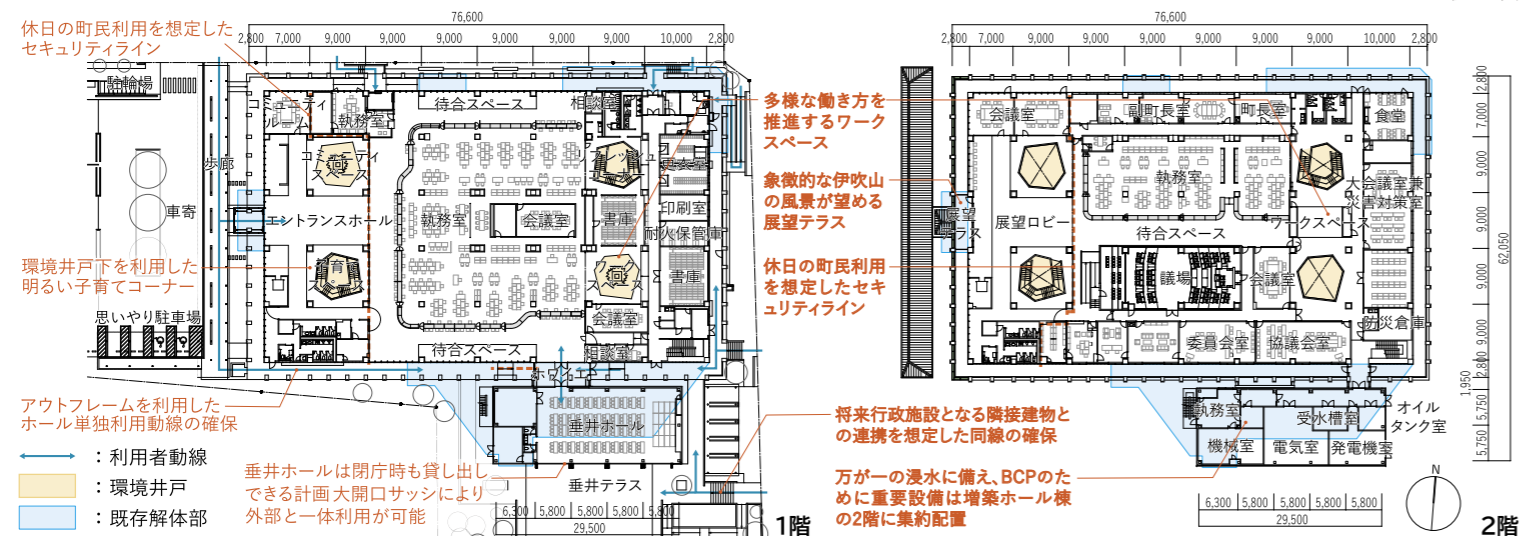
# 垂井町役場



## ショッピングセンターから庁舎への再生

天下の名泉と謳われた泉を持ち、中山道の宿場町として栄えた「水のみち」岐阜県垂井町の庁舎再生計画である。閉店した商業施設を活用したコンバージョンにより新庁舎を整備した。

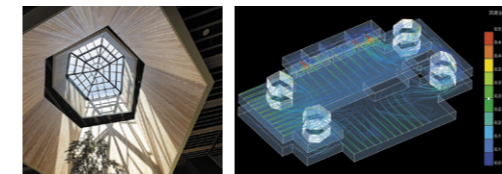
既存建物に3つの要素を付加することで庁舎へと再生した。1つ目は外周に『アウトフレーム』を増設することで耐震性能の向上・防災拠点としての安全性を確保した。2つ目は『ホール棟』を増築し、賑わい機能とエネルギーセンター機能を持たせた。3つ目はトップライト付き吹抜空間『環境井戸』を貫入することで新たな「垂井の泉」となり、閉鎖的だった空間に光と風をもたらし、潤いある内部環境に改善した。



## GOAL 7 (エネルギー) 達成に向けた取組

『環境井戸』がもたらす豊かな内部環境  
トップライトと換気窓を備えた吹抜け『環境井戸』が光と風をもたらし、豊かな内部環境を創出する。シミュレーションにより最適な換気窓の配置を検証した。

一次エネルギー使用量：32%削減・CO<sub>2</sub>：62%削減  
コンバージョンにより、既存建物の解体・新設・工事車両によるCO<sub>2</sub>発生を削減し、新築と比較してCO<sub>2</sub>発生量を62%削減した。



## GOAL 11 (都市) 達成に向けた取組

将来をまちづくり見据えたコンバージョン  
隣接する文化会館と広場、また、町が取得した東側パチンコ店に導入予定の保健センター機能と一体的な連携・賑わいを見据えた庁舎コンバージョン計画となっている。

防災拠点・賑わい拠点づくりを見据えたコンバージョン  
災害時は防災拠点として機能し、隣接する避難施設となる文化会館と一体的な町の災害対策拠点として機能する。

垂井らしい温かみのあるユニバーサルデザイン  
職員と来庁者が双方に話しかけやすい設えとすることで、人による温かみのある案内を重視している。

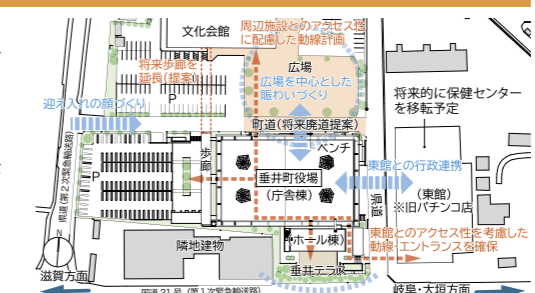
## GOAL 8 (成長・雇用) 達成に向けた取組

来庁者を迎える『中央集約型』の執務室配置  
中央に執務スペースを集約し、来庁者を正面から迎える温かみのあるレイアウトとするとともに、職員のコミュニケーションが取りやすい執務環境を創出している。

職員の多様な働き方に対応できる庁舎  
庁舎でありながら、しっかりとした職員のためのリフレッシュスペースを確保し、イノベーションや業務効率の向上に寄与している。



## GOAL 12 (生産・消費) 達成に向けた取組



## GOAL 15 (陸上資源) 達成に向けた取組

先行分離発注による町産材の内装利用の実現  
設計中の先行発注により、流通していない町の杉材を建材として活用することを可能とした。圧縮プレス加工により、土足仕様のフローリングとして使用している。

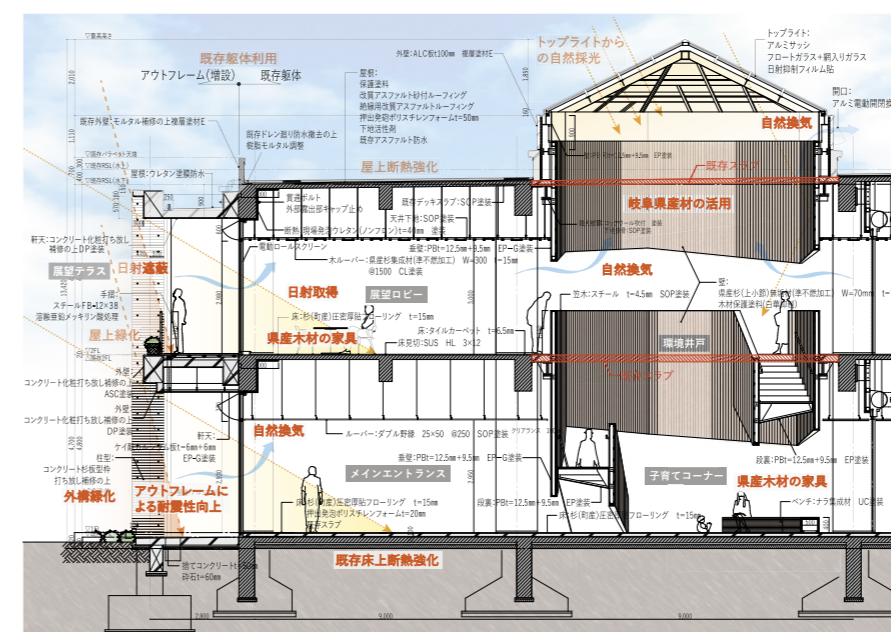
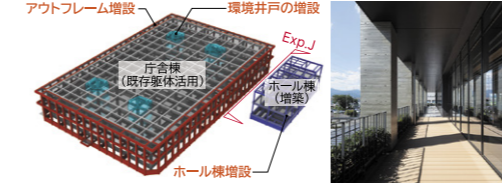
建物内外への積極的な緑化  
建物内部の町民が利用する空間や来庁者を迎える正面外観を中心に緑化した。



## GOAL 12 (生産・消費) 達成に向けた取組

コンバージョンによる躯体の長寿命化  
現行法の耐震基準を満足していた既存建物に、①アウトフレーム②減築③用途変更により、耐震安全性を防災拠点に満足する1類(1.5倍)に増強した。

アウトフレームによるメンテナンス・清掃性の向上  
外周部のアウトフレームにより建物外壁や開口部、設備をメンテナンス・清掃・更新しやすい計画とした。



**概要**

- 建築主：垂井町
- 設計者：株式会社梓設計
- 施工者：TSUCHIYA 株式会社・内藤建設株式会社
- 建築概要

所在地：岐阜県不破郡垂井町宮代 2957-11  
地域地区：準工業地域・防火指定なし(法22条区域)  
構造・階数：鉄筋コンクリート造一部鉄骨造・地上2階建て  
高さ：最高高さ13.66m・軒高：10.54m  
敷地面積：9,476.80㎡  
建築面積：4,438.80㎡  
延べ面積：7,434.66㎡(1階3,913.42㎡・2階3,521.24㎡)  
竣工年月：2019年7月  
設計期間：2016年10月～2018年3月  
工事期間：2018年5月～2019年7月